

ロタウイルス感染症

ロタウイルスワクチン

☆生ワクチンです。

ロタウイルスワクチンは2種類あり、どちらも飲むワクチンです。医療機関で相談してどちらかのワクチンを選んでください。2種類とも予防効果や安全性に差はありませんが、接種回数が異なりますので他のワクチンとの接種スケジュールなどを考慮して選択してください。なお、途中からワクチンの種類を変更することはできませんので、最初に接種したワクチンを2回目以降も接種します。

なお、このワクチンは、ロタウイルス胃腸炎の発症そのものを7～8割減らし、入院するような重症化は、そのほとんどが予防できます。ただし、ロタウイルス以外の原因による胃腸炎には予防効果を示しません。

対 象：令和2年8月1日以降生まれの乳児

ワクチン種別	1価ワクチン（ロタリックス）	5価ワクチン（ロタテック）
対 象 年 齢	生後6週0日から24週0日まで	生後6週0日から32週0日まで
	どちらのワクチンも、生後2か月から生後14週6日までの間に初回接種を行うことが望ましく、生後15週0日以降に初回接種を行う場合は接種する医師（医療機関）とよく相談してください。	
接 種 回 数	2回（27日以上の間隔を空ける）	3回（27日以上の間隔を空ける）
接種後、特に注意する事	どちらのワクチンも接種後（特に1～2週間）は腸重積症の症状に注意し、症状が見られた際にはすみやかに接種した医療機関を受診してください。	

ロタウイルス胃腸炎とは？

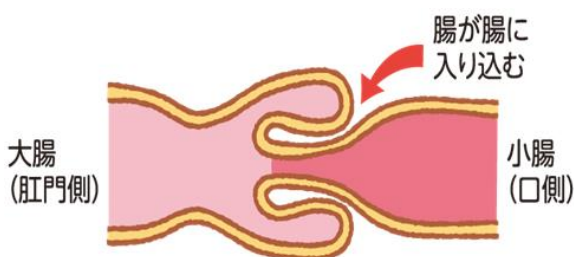
口から侵入したロタウイルスが腸管に感染して発症します。感染力が非常に強く、激しい下痢や嘔吐を起こします。入院や、合併症を起こすこともあります。手洗いや消毒などをしっかりしても、感染予防をすることが難しいため、乳幼児のうちに、ほとんどの子どもが感染します。下痢や嘔吐は1週間程度で治りますが、下痢、嘔吐が激しくなると、脱水症状を起こす場合もあり、乳幼児の急性胃腸炎の入院の中で、もっとも多い感染症です。一生のうちに何度も感染するウイルスですが、初めてロタウイルスに感染した時は、特に重症化しやすく、まれに脳や腎臓に影響をおよぼすこともあり、注意が必要です。生後、すぐに感染する場合もあるので、ワクチンの接種は、早い時期に完了させます。

副反応

ぐずり、下痢、咳、鼻水、発熱、嘔吐、胃腸炎などがあらわれることがあります。特に、接種後1～2週間は、腸重積症（後述）の症状に注意し、症状が見られた際には、速やかに医療機関を受診してください。

腸重積症について

腸重積症とは、腸が腸に入り込み、閉塞状態になることです（下図）。0歳児の場合、ロタウイルスワクチンを接種しなくても起こる病気で、もともと、3～4か月齢ぐらいから月齢が上がるにつれて多くなります。早めに接種を開始し、完了させることがすすめられています。



腸重積症は、手術が必要になることもあります。発症後、早く治療すれば、ほとんどの場合、手術をせずに治療できます。以下のような症状が一つでも現れたら、腸重積症が疑われます。

- 泣いたり不機嫌になったりを繰り返す
- 嘔吐を繰り返す
- ぐったりして顔色が悪くなる
- 血便がでる

このような症状に気づいたら、すみやかに接種した医療機関を受診してください。接種した医療機関とは別の医療機関を受診する場合は、このワクチンを接種したことを医師に伝えてください。